

**森林簿・植生図・リモートセンシングデータの統合的解析による森林の現状把握** 1170210 笹岡新吾  
Understanding the current status of forests by integrated analysis of forest register, vegetation map, and remote sensing data Shingo Sasaoka

高知県の面積の 84%が森林であり、木材生産、CO<sub>2</sub> 吸収源、水源涵養、生物多様性等の観点からその活用が重要であるため、森林の現状の正確な把握が不可欠である。特に、実際の樹種については、管理の状況によって森林簿との一致の度合いが大きく異なる可能性がある。そのため、第一に、地理情報システム (GIS) 上に高知県の約 92 万区画の森林簿データ、環境省の植生図、google satellite データを表示し、高知県の森林の概況を把握した。第二に、より確かな樹種の把握を行うために、旧土佐山田町地区を例として、これらのデータの複合利用によって得られる情報について詳細な検討を行った。先ず、2016 年度の高知県森林簿及び最新の環境省植生図の樹種が一致している区画と一致していない区画を区別して表示できるようにした。この手法により、森林簿記載の樹種の確からしさと課題を把握することが可能になった。更に、google satellite を重ねて表示することによって有用な補足的な情報が得られたが、決定的な樹種の確認は困難であった。そのため、ドローンによって高度約 140m から撮影された画像 (村井亮介氏撮影) を重ねることによって、主な樹種を確認した。そして、樹種がアカマツ、スギ、ヒノキと記載された森林簿の 3 つの最小区画 (「施業」) について、ドローンによって得られた空撮画像に基づいて確認した樹種の面積割合を求めることができた。